

---

# バスケット = 運命

瀬々菜

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

バスケット 運命

### 【Nコード】

N3376C

### 【作者名】

瀬々菜

### 【あらすじ】

6年のころから湧き出した主人公、季砂の思い。それは、『コイゴコロ』。誰にも言うことなく長い月日が流れ・・・いつの日か、友人に言った。その後、両思いになって付き合い始める季砂。ただど相手は年下。。。不満がたまる季砂は・・・？

(前書き)

これは私のほぼ実話です。

体験を元に書きました。

自分の気持ちをぶつけよう。

そうおもい、かきました。

短いですが、

私の気持ちがぎゅっと詰まっているので、

呼んでいただければ幸いです。

最低な女だな・・・。

そう思われても私は仕方ないと思いますが。

読者様の気持ちですから。

実際の名前とは異なりますが、

ほぼ実話。

でわ、じゅっくり。

.....はじめん。

.....ありがとう。。。

〈バスケット運命〉

私、サクラバ桜庭 キズナ季砂はバスケットを小5から始めた。。。

最初は人数あわせだったけどね。

だんだん楽しくなっってはじめてんだ。

それがわたしの

『運命』

だったんだと思う。。。

〈初めてのバスケット〉

バスケの練習にいった。。。

ミニバスって10人出ないといけないの。

だから人数ギリギリで、私が誘われたんだ。

最初はすっごい緊張したよ。

誰ともしやべれなかった。。。

そんな私にでもバスケにいったらすぐ飛びついてくる子がいたの。

それが、末壁<sup>マツカベ</sup> 佳枝<sup>カエ</sup>との出会い。。。

今の、いや。

これからもズーッとわたしの一番の友達。

6年の先輩で一人怪我してる先輩、光<sup>ヒカル</sup>先輩

がいて私が誘われたんだと思う。

ズーッと回りで指示出してたから、キャプテンだったんだよね。

その先輩は。

その先輩が治って、さらにチームのはしぎ度UPしたな。。。

みんなで座禅組んで

「ぼくぼくぼく」

『ちーん』

とかいって遊んでたときもあったな。。。

すぐ時間は過ぎていって、先輩が卒団する間近になってきた。。。

カラオケとかもあって、そのときはまた違う先輩と歌ったの。

もうチームになじみ始めたんだ。

楽しかったけど、もう卒団式。

みんなほとんど泣かなかったけどその代わりに楽しかったな。

そんなこんなで小5が終わり。。。

そうそう、いつの日か幼稚園生年長さんの

羅<sup>ラ</sup>乃<sup>ノ</sup>って子がきたな。。。

くコイノカケラく

小6の最初のほうの大きい大会で二位。。。

結構強かったんだけどな。

だんだん落ちってたよ。

チームも、チームの仲も。

私が一番嫌いだったのはキノコ頭のみり。

気持ち悪いし性格悪いし、

何よりも小学校が一緒だった。。。

うちのチームはいろんな学校から来てたんだよ。。。

一緒ってのが最悪。。。

6年になって、お楽しみ会っていろいろあって。。。

チームの人数も増えたよ。

良いチームメイトだったな。。。

前にきた、羅乃も、きたんだよね。。。

羅乃はかわいくって、私になついていたんだ。

その子のお兄ちゃんアユム歩もめっちゃかわで。。。

私の3つ下。

バスケもやってる。

歩にメアド聞かれて結構メールしてたんだけどさ。

最初ちょーめんどかったんだ。

だけど友達にいきなり、

「歩さあ、季砂の子とすきなんじゃん？」

「……………え？」

この瞬間。

わたしは意識し始めた。

歩の口。

気づくと目で追ってた。

そう。

それが恋の欠片とも知らずに

（初恋？）

私ははじめて恋という物を知った。



とおもってた。

ほんとは、ちがったのかな。

憧れ。

いや、萌えにちかかったのかな。

ズーっとそんな感じで、1年が過ぎようとしてた。

最後のほうの試合。

結果は。。。。

負け。

最悪。

というか、東部で2位だったチームがうちの市で4位にガタ落ち。

最悪なチーム。

ねえ、歩？

私は。。。。

今貴方を見ても元気になれないよ？

貴方は。。。。

私を見ていましたか・・・？

私の友達佳枝には、言ってなかったね。。

ずーっと。

言ったのは結構後だったね？

神様。

私が思ってた恋は恋ではないのですか？？

教えてください。

神様。

神様。。

くありがとう。ミニバス。みんなく

もう、卒団か。。

卒団式があった。

そのまえにバスケットで遊びやった。

なんかママさんバスケット風ゲームやったよ。

デブイママさんに押されて痛かったわア。

で、卒団式。

卒団生から一言って。

いきなり言わされたな。

わたしは、

「短い間だったけど、みんなとバスケットができて楽しかったです。ありがとうございました。」

とかいったような気がするな。

ほんとに、楽しかった。

小さい子とできるのは。

のびのびできたし。

6年生とって言うのと、ううんってカンジ。

小さい子みんなから一言で、泣いちゃった子もいたよ。。。

寄せ書きとか貰った代わりにこちらは手紙あげたんだ。

一人一人にあった言葉を、ていねいに考えて書いたよ。

絵も描いたよ。

「絵入ってるからね^^\*」

そういうとみんな喜んでたな。

うれしかったよ。

そのときは。

ありがとう。

ありがとう。

感謝してます。

書状とトロフィーも貰って、部屋に飾ってるんだ。

なんか花も貰ったし、大きなかばんももらった。

かわいいミッキーの。

100均らしいけどね。

そのあと、出し物があったってお化け屋敷やったんだよね。

今でも覚えてる。

たのしかったよ。

小さい子達、卒団生が帰るときもこったの。

みんなでいす並べて、その上乘って。。。。

クラツカーパンパン鳴らしててその間とおって帰るの。

面白かったア。

その後片付けあつたけど。

片付けんとき、歩がなんかテーブル片付けるときにつだつてくれた。

でも、恥ずくて早くやってたら歩が、指挟んだ。

私のせいじゃないけど。

びびった。

その後さ、ずーッとみんなに言ってんだもん。

「指挟んだー」

って。

だからめーるで謝ったら、

「季砂ちゃんのせいじゃないよ」

とかきて、しかもハートの絵文字つき。

やばかったな。

飛び上がりそうだったよ。

〜フレンドそして後悔〜

4年の彩アヤにさ。

メツチャ好きな人いっていっていわれた。。。

ついに好きな人言っちゃった。

「イニシャルAのひと！」

って。

自分で自分じゃないっていうきもしたけど。

まあいいさ。

でもね、

その子に言わなきゃよかった。

付き合い始めたら、彩は歩に

「ラブラブー」

とかいうんだもん。

小学生だから仕方ないかもだけどね？

後悔

この二文字が頭に残る。

そのときもずっと佳枝にもいってなかった。

いいづらかった。

だって歩の好きな人知ってるって言ってたし。

でもね、中学に入って私の誕生日のとき、バーベキューしたの。

その日の前にクラスの男子、イナリ稲荷にこくられた。

断ったけど。

今日は、シレワ尻輪にこくられた。

両方メールでさ。

こくられて、振った。

そんでさ、

好きな人、佳枝にそんとき言っちゃった。

もっとはやくいっとけばよかった。

信じてたけど、

信じてたから尚更いえなかった。

そんなのいいわけかなあ？

それと、中学でもやっぱり部活はバスケットにした。

楽しい先輩たちに囲まれて、今私はバスケットをやっている。

すごい良い先輩たちなんだよ。

でもね。

4人も1年生入ったのに、2人やめちゃった。

それが先輩がきつかったからなんだって。

お前の態度が悪いんだろとか思いながら。

口には出さずに。

普通に過ごした

。

あんな日が来るとも思わずに。。。



く5月11日く

ともだち彩とカラオケ！！

メツチャ楽しみくく

かなりいろんの歌いまくったな。

たのしかった。

わたしはいつか、こんなメールをした。

宛先は、

歩。

「好きな人いるの？」

最低かもな。

私そう思ってた。

でも、その答え返ってきちゃった。

「うん」

いるんだ。。。

うぬぼれて良い??

あなたは私のコトを好きなの?

「そっか。がんばれ。」

告白する勇気、ない。

「そっちは、いるの?」

そんなメールに、思わず、

「うん」

メール返した。

どきどきした。

「だれ?」

いえるわけないじゃん。

ばか。

「そっちが先言っつてよ。」

何回か繰り返してた。

そういうメールをお互いに。

もう、気づいてたよ。

あなたの気持ちにはね。

でも、自分の答えはよくわかんなかった。

今思うと後悔。

こくつたりなんかしなきゃよかった。

わたしって、最低だ。。。

付き合い始めたことは、家族に言ってない。。。

先輩にも。

この前先輩に

「好きな人いないの？」

って言われて、あせって。。。

「いや～いませんよ～^^^」

っていつちゃったの。

はあ。。。

でもね、その何日か後に、初デートしたんだ。

Wデート。

佳枝の彼氏と。

プリクラだってとったし。

だけどさあ。

ひとつ不満。

何がかつて???

全然しゃべってくんないんだもん。

歩。

ちょっとぐらいしゃべりかけようよ??

私が全部しゃべりかけてんじゃん。。。

任せられるの、好きなほうだけどさ。

こればかりは、任せたくないよ。

佳枝とその彼氏はラブラブだしさア。

そっちもCHUはしてないけど。

くもう、やだ・・・)

なんか私に告って来た稲荷、違う子にくられてOKしてた。

最低だな。

女好きだな。

そう思ってた。

でも、そんなコトいってたらさ、私もだったよ。。

自分でも思う。

男好きだなア。。。

って。

最近会ってない。

歩に。

最近メールくれない。

歩が。

なんかもう冷めちゃってる。。。

終わりにしたほうが、いいのかな。。。

他のクラスの村田君のが、かっこよく見える。

もう、やめたほうがいいんだと私は思うよ。。。

佳枝にも言われた。

「中1の季砂には、子供ッぽすぎたんじゃない？」

って。

わたしは、正直ゆれてる。

村田君は、ちがうクラスのバスケ少年。

同じ幼稚園だった。

もちバスケ部の、めっちゃちっちゃい子。

激萌え。

目つき悪いくらいがいい。

前名前（苗字）呼ばれて、私の名前知ってたのが意外だった。

びびッたけど無視しちゃった^^；

今思うと、返事しときゃよかったな。

いま、ココロが。。。

ゆ れ は じ め て る . . .

）私って最低・・・）

ホントに最低。

私は男好きで最低な女。

自分でそう思う。

最低。

最低。

最近は何度も頭の中で思う。

だって、私は歩に。。。

歩に最低なメール送った。。。

「もうつらいんだけど？歩はどっか思うっ？」

きつと傷ついてるかも。

ううん。

もう時間は戻せない。

それも思い出として心の奥にしまっておこう。

貴方は私といてなにが幸せ？

私は幸せという感情があふれそうだった。

しゃべりかけてくれれば。

私はしゃべりかけてほしかったな。



それぐらい、勘付け。。。

バカ。

ほんとは、自分が一番バカ。。。

私は人を幸せにできないように生まれてきたのかなア？

奇麗事かもしれないけど、

私は誰でも誰かを幸せにはできると思っつよ？

ごめんね、ごめんね。

私は恋に恋してただけみたい。

片思いのときの楽しかった。

ごめん。

ありがとう。

そして最低な私を一生怨んでもいいです。。。

e n d

(後書き)

どうでしたか？

最低だ。

と思われましたか？

こづいうの、わかる。

などそんな様な気持ちで

持っていただけるとうれいす。

言葉がまだまだ未熟な私ですが、

また小説を、今度はフィクションで

書こうと思ひますので、

そのときは、また。

ここまで読んでくださり、ありがとうございます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3376c/>

---

バスケ = 運命

2010年10月22日00時52分発行